

大学 対面授業なお慎重

接種後感染や変異株懸念

大学を拠点とした新型コロナウイルスのワクチン接種は、開始から3カ月が過ぎた。道内の大学でも32校で接種が進む中、各大学が対面授業の再開に慎重な背景には、感染力の強いデルタ株や接種後の「ブレイクスルー感染」への懸念がある。学生は行動が活発なことから、学外での感染リスクを抑え込むことも簡単ではない。国からのワクチンの供給不足も、学生への接種が遅れた大学もあり、各大学は感染状況を注視しながら対応に苦心している。(1面参照)

行動活発 リスク高く

「ワクチンを打ち終えたからと言って、全面的に対面授業を再開することは難しい」。北海道医療大(石狩管内当別町)の担当者はこう話す。道内のトップを切り、6月にワクチン接種を開始した。学生向け接種は8月上旬に終了、今月29日までの予定で当別町民向けの接種を続けている。約3400人の学生のうち、86%が接種を終えたが、対面とオンライン授業の併用を続ける方針。担当者は「ワクチン接種は、開始から3カ月が過ぎた。道内の大学でも32校で接種が進む中、各大学が対面授業の再開に慎重な背景には、感染力の強いデルタ株や接種後の「ブレイクスルー感染」への懸念がある。学生は行動が活発なことから、学外での感染リスクを抑え込むことも簡単ではない。国からのワクチンの供給不足も、学生への接種が遅れた大学もあり、各大学は感染状況を注視しながら対応に苦心している。(1面参照)

後期はオンライン授業が8割のままだ。担当者は「学生の3割はワクチン未接種。デルタ株の拡大やブレイクスルー感染で学生が感染して学習化できる可能性がある以上、対面授業を一気に増やすことは選択しにくい」と明かす。アルバイトや学外で活発に活動する学生も多く、感染を防ぐことは容易ではないのが実情。接種を終えた他の大学も「対面授業を再開したり、増やしたりする場合は検討中」(北大)、「一気にコロナ前の授業形式に戻すことはできない」(小樽商大)と苦慮する。一方、医療系学科のある大学では病院などの実習が欠かせない。オンラインだけでは授業が成り立たず、大学でのワクチン接種前から感染対策を徹底した上で対面授業や実習を行ってきている。看護学部の学生約400人へのワクチン接種を終えている日赤道看護大(北見市)は「感染リスクをさらに下げることで、学生たちと実習の受け入れ先の安心につながっている」と話す。大学でのワクチン接種を巡っては、供給不足から政府が申請受け付けを一時停止したため影響を受けた大学も少なくない。北見工大は7月末から8月の実施を予定していた

新型コロナウイルスワクチンの接種を行った大学
 大学名 接種状況(学生以外も含む)

大学名	接種状況(学生以外も含む)
北大	9月12日終了
樽商大	9月12日終了
室工大	実施中(10月17日まで)
帯畜大	実施中(9月29日まで)
北見工大	実施中(10月22日まで)
札医大	実施中(10月15日まで)
札幌市立大	実施中(10月1日まで)
名寄市立大	7月30日終了
はこだて未来大	実施中(10月25日まで)
北海学園大	実施中(9月30日まで)
北海商科大	実施中(9月30日まで)
札幌大	実施中(10月13日まで)
藤女子大	実施中(10月3日まで)
北星学園大	実施中(10月3日まで)
道科学大	8月6日終了
東海大札幌	8月24日終了
酪農学園大	実施中(10月1日まで)
天使大	8月10日終了
札幌学院大	実施中(10月10日まで)
旭川大	実施中(10月31日まで)
函館大	8月22日終了
道医療大	実施中(9月29日まで)
星槎道都大	実施中(10月22日まで)
道情報大	9月18日終了
東京理科大長万部	実施中(10月2日まで)
東農大網走	8月4日終了
北翔大	実施中(10月10日まで)
道文教大	実施中(10月7日まで)
日赤道看護大	8月28日終了
札幌保健医療大	9月17日終了
日本医療大	実施中(10月12日まで)
道千歳リハビリテーション大	実施中(10月4日まで)

※実施大学は北海道新聞の調査や文部科学省資料などによる
 ※道教大は近隣の大学や企業の接種に参加

が、開始は9月25日。終了は10月下旬の予定で、担当者は「本来なら学生の夏休み前に実施したかった」。札幌市立大も6月下旬に政府に申請したものの開始は9月1日で、終了は10月1日を見込む。道内のある大学の担当者は「ワクチン供給が遅れる間に自校での接種が進んだため大学の接種希望者が大幅に減ってしまった。実働千名を割り込むところだった」とぼした。(佐藤圭史、田鍋里奈、矢野裕泰)

自衛隊大規模接種対象を16歳以上に
 防衛省は24日、自衛隊が運営する新型コロナウイルスワクチンの大規模接種センターに關し、これまで18歳以上としてきた対象年齢を16歳以上に引き下げることを決めた。新たに16歳までの予約枠を1日当たり東京会場500人、大阪会場200人設ける。予約受け付けは10月3日から接種は同7日に開始。通学に影響しないよう平日は午後4〜7時に限定する。防衛省によると、16〜18歳の接種予約は、毎週日曜と水曜の午後6時から翌日午前0時まで、同省ホームページや通信アプリのLINE(ライン)で受け付ける。使用する米モデルナ製ワクチンは12歳以上に接種可能だが、15歳以下は保護者の同伴が必要のため16歳以上に限った。

道内大学 8割が接種

学生4割超、1回目完了

大学を拠点にした新型コロナウイルスのワクチン接種で、道内の国立・私立計40大学のうち、8割の32校が学生へのワクチン接種を行ったことが北海道新聞の調査で分かった。このうち11校は2回の接種をすでに終えた。学内でのワクチン接種が一定程度進んだものの、接種後の感染の恐れや大学外での接種が十分に進んでいないこともあり、各大学とも「対面授業」の全面再開には慎重だ。

(33面「対面授業なお慎重」)

調査は21、22の両日、各大学の担当者に聞き取りで行った。北海道新聞の集計では、道内40大学の学生約9万3千人のうち、少なく

とも1回の接種を大学で受けた学生は約4万3千人で、学生の46%に上った。2回の接種を終えたのは約2万2千人だった。

道内の年齢別のワクチン接種率(1回目、20日時点)は、12〜19歳が25%、20〜29歳が40%。道内大学でのワクチン接種率は、学生の

大半を占める10代、20代の道内の接種率を上回っており、若年層への接種が一定程度進んだ形だ。

コロナ禍でオンライン授業と対面授業を併用している大学が多く、学生への接種が終了しても、対面授業の全面再開などに踏み切った大学はなかった。学生へのワクチン接種を行った32校のうち、実施中

の21校も9月末までに4校、10月末までに17校がそれぞれ終了する予定。大学同士の連携もあり、北大と小樽商大、札幌学院大と北翔大、星槎道都大と北海道武蔵女子短大は合同実施した。一方、学生数が少なくワクチン接種を実施していない大学では、地元企業の職場接種への参加や、地元自治体によるワクチン接種を学生に勧めている。

大学でのワクチン接種は6月21日に全国で開始した。道内では北海道医療大(石狩管内当別町)がトップを切って同日から接種を始めていた。文部科学省のまとめでは9月16日時点で実施大学(予定を含む)は全国362校に上っている。

(光嶋るい、今関茉莉)